

新型コロナウイルスに対する百科事典的知識の形成 ー「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の用法拡大の考察からー

梶原 彩子・陳 帥・松浦 光・菊地 礼

1. はじめに

2019年末から、新型コロナウイルス (Covid-19) の感染拡大によって社会のあり方が一変した。感染拡大やそれに伴う社会変化を通して多様な概念が出現し、コロナ関連の新語¹⁾がいくつも生まれては消えている²⁾。一方で、同時期に出現し、日常に定着した新語として時間的に対比的な概念を表す「ウィズコロナ」「アフターコロナ」がある³⁾。

(1) 気がつけば、日本の感染者数はとうに韓国を超え、ついに中国をも上回った。経済活動の維持といって特定業界に金をばらまくだけでは、ウィズコロナ、アフターコロナの世界は描けない。(「朝日新聞」2020年12月1日朝刊2商況)

(2) 新型コロナワクチン実用化大詰めの報に色めき立つと、ウィズコロナな銘柄が売られ、アフターコロナな銘柄が買われるというような動きをしていました。

(<https://yuhkinoine.com/blog/20201111afterorwith/>)

新型コロナウイルスを表す「コロナ」に英語のウィズ (with) とアフター (after) をつけた新語であり、「コロナとともに」「コロナ後」といった意味を表す。繰り返し使用されるうちに各特徴が社会的にも認知されていると考えられる。例文 (2) からは特徴的な属性も意味として定着している様子がうかがえる。また、両表現は時間的に対比的な意味を表すことから、用法の記述・比較分析は人々の新型コロナウイルスへの捉え方の解明に繋がると考えられる。以上のことから、新語「ウィズコロナ」「アフターコロナ」は意味を確立する段階にあるというだけでなく、人々の新型コロナウイルスへの理解の深まりに伴い、知識の変容が観察できる表現であると位置付けられる。本研究では、言語的意味と百科事典的知識を連続的に捉える認知言語学の意味観に基づき、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の用法拡大を考察する。なお、両表現は和製英語であり、英語では「ウィズコロナ」は in the time of COVID-19, coexisting with the coronavirus、「アフターコロナ」は post pandemic などと表現される。本研究では語構成的分析や日英対照ではなく、百科事典的知識の形成に焦点を当てる。

2. 本研究の意味観

本研究は意味を言語使用者の外界認識（概念化）の産物として捉える認知言語学の意味観に立って分析を進める。概念化というのは、身体性や個人の解釈（捉え方）に基づいて行われ、意味は客観的な現実世界の反映ではなく認識主体の主体的解釈である。本研究でも、認識主体の言語使用、定着度や慣用度という観点から、実際の言語使用の実態をボトムアップ的に見ていく。認知言語学の意味観の特徴は次の3点である。すなわち、意味は認識主体による概念化の産物であること、認識主体が持つ、指示対象に関する百科事典的知識を背景とすること、認識主体の持つ身体的特徴、生活環境、社会性などに動機付けられていることである（松本 2003、2018）。百科事典的知識⁴⁾とは事物に関する常識の集合である（Haiman1980、Langacker1987、靱山2010）。このように、認知言語学の意味観において百科事典的知識の形成は重要な観点であると言える。しかし、現実的には百科事典的知識形成の実証は困難であり、そこに着目した研究も管見の限り見当たらない。その点で「コロナ」は、2019年末から2021年を通してビックイシューであり続け、人々の間で概念化が急速に進んでいる。また、継続してメディア等で取り上げられていることから、百科事典的知識が常に更新されている状況でもある。そこで本研究は、私たちがどのように新型コロナウイルスを概念化し、百科事典的知識を形成してきたのかを明らかにすることを目的として、新語「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の用法拡大を見ていく。

3. 分析

分析資料⁵⁾は、『朝日新聞』『週刊朝日』『AERA』（2019年12月1月～2020年12月18日）から収集した「ウィズコロナ（165例）」「アフターコロナ（120例）」である。初出は「アフターコロナ」が2020年4月29日、「ウィズコロナ」が2020年5月15日である。3.1で「ウィズコロナ」、3.2で「アフターコロナ」の各用法を示す。

3.1 「ウィズコロナ」

本節では「共生の状態」「対策」「制限された状態」という3つの用法を順に示す⁶⁾。

3.1.1 「共生の状態」

この用法において、「コロナ」は一時的に人々と共存する存在として捉えられ、「ウィズコロナ」は人々がコロナウイルスとともにある状態を表す。

(3) コロナ禍で改めて気づかされた健康の大切さ。街を歩くと、以前よりもウォーキングやジョギングをする人の姿を見かけるようになった。ウイルスと共生する「ウィズコロナ」の時代は、自分自身の健康に責任を持つ「自己管理」の時代でもある。

（『週刊アエラ』2020年6月15日）

(4) 解除後の生活について広瀬知事は「ステイホームではなくウィズコロナ。感染を避けるため家にいるのではなく、制御しながら生活や経済活動を再起動していくことが太事」と語った。
(「朝日新聞」2020年5月15日朝刊・大分全県1地方)

例文(3)では「ウィズコロナの時代」の説明として「ウイルスと共生する」と明示されており、話者にとってコロナは健康の大切さに気づくひとつのきっかけである。例文(4)で話者は感染を避けて家にいる「ステイホーム」ではなく「ウィズコロナ」としてウイルスを制御しながら生活や経済活動を再起動させることの大切さを述べている。

3.1.2 「対策」

この用法において、「コロナ」は通常(新型コロナウイルス感染拡大前)とは異なる対策を強いる存在として捉えられ、「ウィズコロナ」は人々が取る対策を表す。

(5) 入場前の検温、マスク着用、社会的距離の確保、声を出しての応援の禁止など、観戦スタイルは一変しました。(中略) ボールを蹴る音や掛け声が響き、拍手だけの応援が続くスタジアムの風景にも、慣れてきました。「ウィズコロナ」は当面続きそうです。
(「朝日新聞」2020年9月18日朝刊東京B・2地方)

(6) 店で支払った履歴が分かるため、万が一、店で感染者が出た場合などに来客リストの代わりになるという。参加店は同市が示す感染対策をした店に限り、新たにテイクアウトメニューを加えて前回より開催期間を長くするなど、「ウィズコロナ」を模索する中で、こうすればイベントを開催できるという指針になればいいと話す。
(「朝日新聞」2020年10月16日朝刊千葉全県・2地方)

例文(5)(6)では、観戦スタイルの変更、感染者発生への備え・テイクアウトメニューの追加・イベントの期間延長などの具体的対策が前文脈で示され、コロナウイルスとともにある状態のなかで取るべき対策が「ウィズコロナ」と述べられている。

3.1.3 「制限された状態」

この用法において、「コロナ」は通常(新型コロナウイルス感染拡大前)通りの活動を妨げる存在として捉えられ、「ウィズコロナ」は対策が取られ、人々の活動が制限された状態を表す。

(7) 12月、産婦人科に転院、胎児の心拍音に安堵(あんど)の涙。年を越し、安定期に入るもコロナ到来。3月、自粛生活中に43歳を迎える。6月、ウィズコロナで次男を出産。
(「朝日新聞」2020年9月13日朝刊・三重全県・1地方)

(8) 新型コロナウイルスの影響で過密日程が続く今季だが、ウィズコロナのJリーグが成立していることは非常に心強い。

例文(7)(8)では、「ウィズコロナ」がどのような状態か前後文脈に具体的には示されていない。しかし、前後の文脈から消毒や面会の人数制限、大声を上げない観戦スタイルなどの感染拡大防止対策が取られた状態だと推測され、対策が取られた状態は人々にとって行動制限のある状態である。ここでは、コロナウイルスの影響を受けた状況下での出産やJリーグ開催といった通常とは異なる活動維持の形態を「ウィズコロナ」と述べているのだと解釈できる。この用法では、次の例文(9)のように新型コロナウイルスへの対策が取られ制限された状態が結果的に未来時を表す⁷⁾こともある。

(9) 滞在と交流を通して地域の活性化をはかり、就農や移住にも結びつけたい考えだ。農泊は農山漁村に宿泊して、生活体験と地域の人たちとの交流を楽しみながら、魅力を味わってもらう滞在型旅行で国も推進する。ウィズコロナ時代の観光ビジネスとしても注目される。
(「朝日新聞」2020年11月11日朝刊ちば首都圏・1地方)

例文(9)では「ウィズコロナ時代の観光ビジネス」がどのようなモデルなのか前文脈で示されている。「滞在と交流を通して地域の活性化」や「生活体験と地域の人たちとの交流を楽しみながら」と述べられているように「ウィズコロナ」は直接的な制限を表すわけではない。しかし、滞在型という点で感染拡大のリスクは低いと考えられる。ここで「コロナ」は、短期的に人が移動するという従来の観光の概念を変えるきっかけとして捉えられ、結果的に「ウィズコロナ」が新型コロナウイルスで変化した、先の社会を表している。

3.2 「アフターコロナ」

本節では「根絶の状態」「収束の状態」という2つの用法を順に示す⁸⁾。

3.2.1 「根絶の状態」

この用法において、「コロナ」はいつか消える存在として捉えられ、「アフターコロナ」はコロナウイルスが消えた状態を表す。

(10) 「お店を再開したら使えるアフターコロナ商品券を販売している店もあるけど、アフターコロナっていつ？アフターに注文くるんかね？」

(「朝日新聞」2020年4月29日朝刊石川全県・1地方)

(11) 「アフターコロナ」という言葉も聞かれるようになりました。でも、たとえ新型コロナが終息しても、新しい未知のウイルスや災害は、またいつ発生するか分かりません。
(「朝日新聞」2020年5月28日朝刊神奈川全県・2地方)

例文(10)(11)で話者は、商品注文が入るか、新たな未知のウイルスの感染拡大という不安を表しながらも、「(町に活気が戻り) お店を再開」できるようになった状態や「コロナが終息」した状態を「アフターコロナ」と表している。ここで「アフターコロナ」はある種の希望的な観測として、コロナウイルスを根絶した状態を表す。

3.2.2 「収束の状態」

この用法において、「コロナ」は社会に課題を残す存在として捉えられ、「アフターコロナ」はコロナウイルスによって影響を受けた状態を表す。

(12) (前略)協議が調えば、基本計画策定のための補正予算案を提出する方針を示していた。しかし、交渉の中で、近鉄側は「新型コロナウイルスの影響がグループ全体に及んでいる。アフターコロナの社会のあり方などを見据え、各部門の経営方針や戦略を検討しなければ、判断できない」と回答。

(「朝日新聞」2020年10月2日朝刊福井全県・1地方)

(13) アフターコロナのための国の支援策を可視化するため、情報提供や申請の手伝いなどをするワンストップ窓口「コロナ禍緊急相談室」を立ち上げる。

(「朝日新聞」2020年10月1日朝刊三重全県・1地方)

例文(12)はこれまでの社会のあり方とは異なる社会を「アフターコロナの社会」とし、補正予算案の判断には現段階の社会ではなく新型コロナウイルスによる社会変化を見据えた検討が必要だと述べる。例文(13)はコロナ禍緊急相談室立ち上げの目的を「アフターコロナのための国の支援策」の可視化であると述べる。つまり話者は、コロナウイルスによる影響が残った状態を「アフターコロナ」と見なしている。この用法でも先の「ウィズコロナ」と同様に、新型コロナウイルスの影響が残った状況が変化として捉えられ、結果的に未来時を表すことがある。

(14) アフターコロナでは東京への一極集中を打破する必要がある——川勝平太知事は4日、WEB上で開かれた全国知事会に臨み、知事会が提案する「日本再生宣言」に沿った形で、首都機能の移転や地方分権について、持論を展開(中略)「静岡は空気がきれいで、密集も避けられ、食材も豊か。在宅仕事やリモート会議を推進し、東京と地方の2地域居住という新しい暮らし方のモデルを提供したい。」と話した。

(「朝日新聞」2020年6月5日朝刊静岡全県・1地方)

例文(14)で話者である知事は、「東京への一極集中」が「アフターコロナ」で解消すべき課題であり、「東京と地方の2地域居住という新しい暮らし方のモデル」を解決の鍵として捉えていることがわかる。そのような暮らし方を可能にするのは、在宅仕事やリモート会議であり、それはこのコロナ禍で推進されていることでもある。このこと

から、コロナウイルスによって変化していく先の社会が「アフターコロナ」と見なされていると解釈できる。ここで、「コロナ」は従来の社会的な課題解決を進めるきっかけとして捉えられ、結果的に「アフターコロナ」が新型コロナウイルスで変化した、先の社会を表している。

3.3 まとめ

ここまで「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の用法拡大を例文に基づいて示した。「ウィズコロナ」は、新型コロナウイルスがある状態からウイルスによって制限のある状態へ、「アフターコロナ」は、新型コロナウイルスが消えた状態から、ウイルスの影響が残る状態へ、と用法の拡大が見られる。また、このような用法の拡大によって、時間軸において同時期か後か、という対極の意味を表していた両表現は未来時にも使えるという点で近似していることを示した。

続いて、両表現における新型コロナウイルスに対する捉え方の相違点を「ウィズコロナ」の制限された状態(3.1.3)と「アフターコロナ」の収束の状態(3.2.2)を表す用法において未来時を表す例文から考えてみたい。先の例文(9)(14)を再掲する。

(9) 農泊は農山漁村に宿泊して、生活体験と地域の人たちとの交流を楽しみながら、魅力を味わってもらう滞在型旅行で国も推進する。ウィズコロナ(アフターコロナ)時代の観光ビジネスとしても注目される。

(14) アフターコロナ(ウィズコロナ)では東京への一極集中を打破する必要がある――(中略)首都機能の移転や地方分権について、持論を展開した。

例文(9)のように、「ウィズコロナ時代」が表す新型コロナウイルスの影響が残った状態と「アフターコロナ時代」が表す新型コロナウイルスが収束した状態は、いずれも「未来」として捉えられる。一方で、例文(14)のように新型コロナウイルスが収束した状態を表す「アフターコロナでは」を「ウィズコロナでは」とすると、共生の状態、対策、制限された状態いずれの用法でも解釈可能となり、意味的にも「アフターコロナ」と「ウィズコロナ」で対比が生まれる。その結果、「ウィズコロナ」は「未来」として捉えにくくなる。この違いは以下の例文(15)(16)に示す通り、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」では新型コロナウイルスの捉え方が異なることに拠る。

(15) アフターコロナ(*ウィズコロナ)は{ゼロコロナ／ウイルスが消えている}だろう。

(16) アフターコロナ(*ウィズコロナ)には、感染拡大が抑え込まれているだろう。

例文(15)(16)で「ウィズコロナ」が容認しにくい。「ウィズコロナ」における新型コロナウイルスに対する捉え方は、コントロールの効かない・共生する存在であるのに対

し、「アフターコロナ」ではコントロールの効く・いつか消える存在として捉えている。両表現には、このような新型コロナウイルスに対する捉え方の違い⁹⁾がある。

この捉え方の違いは、次の例文(17)(18)では意味の違いとして表出されている。

(17)「新型コロナ収束後も成長が見込める『アフターコロナ(ウィズコロナ)株』と評価された」
(「朝日新聞」2020年6月6日朝刊2経済)

(18)3月19日を底に株価が反発した3月24日、新型コロナウイルスによる自粛によって業績が伸びる可能性がある『ウィズコロナ(*アフターコロナ)株』を買いました。
(<https://diamond.jp/articles/-/238865>)

ここでは、コロナが落ち着いても継続的に成長が見込める株が「アフターコロナ株」、自粛による新たな需要などで業績が伸びる可能性がある株が「ウィズコロナ株」と表現されている。「新型コロナ収束後も成長が見込めるウィズコロナ株」は今後も成長を続ける株という意味を表せるが、「*自粛によって業績が伸びる可能性があるアフターコロナ株」は、新型コロナウイルスがあることで生まれる利益という意味がなくなってしまい、成り立たない。このような新型コロナウイルスの捉え方の相違は「ウィズ」「アフター」の意味に起因すると考えられる。「ウィズ」は並列(例：クラシックフライwith(ウィズ) チーズ(マクドナルド))、「アフター」は結果状態(例：サロン後に、美髪を保つ選択を。LUX アフターサロン(ユニリーバ))を表すことから、3.1と3.2で示した通り「コロナがある状態」「コロナが消えた状態」から各用法に拡大している。以上、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の用法を表1として示す。

表1 「ウィズコロナ」と「アフターコロナ」の用法

ウィズコロナ	アフターコロナ
①共生の状態 新型コロナウイルスがある状態	①根絶の状態 新型コロナウイルスが消えた状態
②対策 新型コロナウイルスに対して取る対策	②収束の状態 新型コロナウイルスによる影響が残った状態
③制限された状態 新型コロナウイルスに対する対策が取られた状態	

4. 新型コロナウイルスに対する百科事典的知識の考察

本節では、新型コロナウイルスに対する百科事典的知識の形成について、前節で述べた用法とあわせて考えたい。次の表2は、社会的な出来事の流れと両表現の使用数をまとめたものである。社会的な出来事に基づき、時期は新型コロナウイルスの国内流入期(第1期)、経済・社会活動の再開期(第2期)、感染拡大期(第3期)とした。

表2 社会的な出来事と「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の用例数

社会的な出来事		月	ウィズ	アフター
第1期 国内流入期	武漢で原因不明の新型肺炎発生 (2019.12月末)	1	0	0
	国内でも武漢関連の感染拡大 (2019.1月中旬～末)	2	0	0
	クルーズ船内での集団感染、大阪ライブハウスクラスター マスク不足 (2020.2)	3	0	0
	小中高校の一斉休校 (2020.3)	4	0	3
	志村けん氏死去 (2020.3月末) 緊急事態宣言 (2020.4.7～5.15)	5	1	4
第2期 経済・社会活動の再開期	緊急事態宣言、全都道府県で解除 (2020.5.25)	5	2	13
	大相撲、甲子園大会中止 (2020.5月末)	6	16	29
	感染者数の連日2けた台 (2020.5月中旬～6月下旬)	7	27	23
	プロ野球開幕 (2020.6.19)	8	24	8
	Go To Travel キャンペーン開始 (2020.7.22～)	9	32	13
	感染者数、再拡大 (2020.7月末～8月初旬) 感染者数、減少傾向が停滞 (2020.9後半) 米・トランプ大統領感染・ホワイトハウスクラスター (2020.10)	10	36	14
第3期 感染拡大期	Go To Travel キャンペーン本格化 (2020.10月末～)	11	17	9
	東京都酒提供の飲食店に営業短縮要請 (2020.11.25) 大都市圏で医療提供体制の逼迫 (2020.12.3) 重症者最多588人、GoTo Travel 一時停止 (2020.12.14)	12	10	4

このように、新型コロナウイルスに関する百科事典的知識は、社会的な出来事を契機として海外の未知のウイルスという認識から、誰がどこで感染しても不思議でない・最悪の場合は死亡する(第1期)、対策である程度はコントロールできる・消滅は難しい(第2期)、長期的コントロールが難しい・対策が緩むと即拡大する(第3期)といった知識が形成されていったと考えられる。これは、「ウィズコロナ」がウイルスのある状態からウイルスに対する人々の行為、ウイルスによる行事や社会の状態を表すようになることや、「アフターコロナ」がウイルスの消えた状態から影響が残った状態(空間)を表すようになるという、両表現の用法拡大の実態と一致する。

また、使用数を見ると、第1期では「アフターコロナ」が「ウィズコロナ」より多い。2期の後半(8月～10月)で初めて「ウィズコロナ」が「アフターコロナ」を上回り、第3期でも「ウィズコロナ」の使用が「アフターコロナ」を上回った状態が続く。第2期の後半は、イベントの再開やGoToキャンペーン開始があり、ウイルスへの対策と経済活動の並行を模索した時期であるが、感染者数が再拡大・減少傾向の停滞などからは共生の難しさを社会が実感した時期と言える。この実態も「アフターコロナ」において新型コロナウイルスをコントロール可能な存在として捉えるという3.3の結果とも整合性があると言える。

5. おわりに

本研究では「ウィズコロナ」に3つの用法(「共生の状態」「対策」「制限された状態」)、「アフターコロナ」に2つの用法(「根絶の状態」「収束の状態」)を認め、両表現における

用法拡大を指摘し、両表現の背景には新型コロナウイルスを克服できる存在として捉えるか否かというウイルスへの捉え方の相違があることを確認した。その上で、新型コロナウイルスに関連する社会的出来事から百科事典的知識の形成と変容を考察し、それが両表現の用法拡大とも整合性があることを述べた。

しかし、百科事典的知識の形成時期と各用法の出現時期と用例数については言及することができなかったため、今後他媒体を含めて考察したい。また、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」という表現の成立背景には、概念メタファー理論 (Lakoff and Johnson 1980) における存在のメタファー¹⁰⁾の関与がある。本研究で見た百科事典的知識の変容は概念メタファー理論における領域 (domain) の形成プロセスでもあることから、メタファーとしての新型コロナウイルスについても考えていきたい。

注

- 1) 『明解日本語学辞典』では、「新語」を「新しくその社会に現れた語、または事物や概念を新しく表現するために新しい定義を与えられた語のこと。前者には2種類あり、1つは新たに創造された語 (新造語) であり、もう1つは既存の語を利用した語 (借用語・合成語・派生語・省略語など) である。」(p.99)としている。「ウィズコロナ」「アフターコロナ」は後者の既存の語の利用に該当する。
- 2) 2020年度の『『現代用語の基礎知識』選ユーキャン新語・流行語大賞』では、ノミネートされた30語のうち約半分が新型コロナウイルスに関連する。
- 3) 用例中の下線は全て筆者に拠る。用例中の考察対象「ウィズコロナ」「アフターコロナ」に下線を施し、用例の解釈に重要と思われる箇所には点線を施した。出典は例文後ろの()に示した。
- 4) 百科事典的意味 (知識) を抽出する手がかりとなる言語表現の1つとして、靱山 (2003: 80-81) は「らしい」を含む表現を挙げている。「あの子は冷静でいかにも子供らしい」が不自然であるのに対して「あの子は無邪気でいかにも子供らしい」が自然であることから、「無邪気」が「子供」の百科事典的意味として考えられるのに対して「冷静」はそうではない。
- 5) 選定理由は、同系列メディアの用例を広く集められ、系列放送局 (テレビ朝日) での報道と比較が今後可能となると考えたためである。
- 6) 「対策」では目的格や主題 (「ウィズコロナを」「ウィズコロナは」)、「制限のある状態」では付帯状況成分や体言のあり様を規定する成分 (「ウィズコロナで」「ウィズコロナの」) として働くといった形式的特徴も各用法に認められる。
- 7) 新型コロナウイルスへの対策が取られ制限された状態が結果的に未来時を表すものには「ウィズコロナ時代」以外にも「ウィズコロナ株」「ウィズコロナ社会」などがある。なお、本研究の「未来」はテンスでなく予測性や起こりうる事態を示す。
- 8) 「収束の状態」では体言を修飾する規定成分として後続する名詞句のあり様を限定する。未来時を表す場合には場所格や目的格 (「アフターコロナで」「アフターコロ

ナに)」として格成分となる、といった形式的特徴も各用法に認められる。

- 9) 新型コロナウイルスに対する捉え方による未来像の相違は時として社会的な分断も生む。百科事典的知識の変容に伴い、「アフターコロナ、ポストコロナ、ウィズコロナ。どのような言葉を選ぶにせよ、現在起きているパンデミックが、社会を変えるきっかけになるのではないかと、多くの人が感じている。」(「朝日新聞」2020年10月3日朝刊読書1)「経済活動の維持といって特定業界に金をばらまくだけでは、ウィズコロナ、アフターコロナの世界は描けない。」(「朝日新聞」2020年12月1日朝刊2商況)」など、様々な立場の人々に配慮を示すような並列表現が見られる。
- 10) 存在のメタファーは、出来事、感情、思考のような抽象的な対象を実体と見なして理解するという概念メタファーのひとつである。

引用文献 (日本語)

- 松本曜 (2003)「第2章 語の意味」松本曜 (編)『認知意味論』大修館書店, 17-72.
- 松本曜 (2018)「第3章 認知言語学の意味観はどこが独自ののだろうか？」高橋英光・野村益寛・森雄一 (編)『認知言語学とは何か？—あの先生に聞いてみよう—』くろしお出版, 45-61.
- 初山洋介 (2003)「認知言語学における語の意味の考え方」『日本語学』22(10), 74-82.
- 初山洋介 (2010)「百科事典的意味観」山梨正明ほか (編)『認知言語学論考 No.9』ひつじ書房, 1-37.
- 森山卓郎・渋谷勝己 (編) (2020)『明解日本語学辞典』三省堂.

引用文献 (英語)

- Haiman, John (1980) Dictionaries and encyclopedias. *Lingua*, 50, 329-357.
- Langacker, Ronald W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar (Vol.1): Theoretical Prerequisites*. Stanford University Press.
- Lakoff, George and Johnson, Mark (1980) *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago Press. (渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸 (訳) (1986)『レトリックと人生』大修館書店.)

用例の出典

朝日新聞記事データベース『聞蔵Ⅱ ビジュアル』(検索期間：2019年12月1日～2020年12月18日)

ダイヤモンド社「『ウィズコロナ株』として伝説の個人投資家が注目した11銘柄を公開！投資家 DAIBOUCHOU さんのコロナ・ショックへの対応、売った株&買った株を徹底検証！」〈<https://diamond.jp/articles/-/238865>〉(最終閲覧日 2021年5月15日)

梶原 彩子 (名古屋学院大学)・陳 帥 (青島農業大学)

松浦 光 (横浜国立大学 [非])・菊地 礼 (東京成徳大学 [非])